

大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」派遣の充実改善に向けて

広島県立生涯学習センター
社会教育主事 大下展弘

1 はじめに

広島県教育委員会（以下「県教委」という。）が、放課後子ども教室推進事業で、大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」（以下「ワクワク学び隊」という。）の派遣を実施して、3年が経過する。

この取組の契機は、広島県内の放課後子ども教室において、ボランティアの協力を得て、勉強やスポーツ、伝統的な遊びの体験や高齢者の交流などの活動が実施されていく中で、地域によっては、ボランティアの確保が難しい、活動がマンネリ化しているといった課題が出てきたことである。

そこで、その課題を解決する方策の一つとして、県教委は、放課後子ども教室の充実・活性化、大学生の社会貢献活動への参加を支援することをねらいとして、「ワクワク学び隊」を派遣する取組を平成23年度から開始した。

この3年間、派遣を受け入れた各放課後子ども教室の活動において、「ワクワク学び隊」は、概ねねらいどおりの実績を上げてきている。しかし、一方で、課題も見られる。

本調査研究では、これまで行ってきた「ワクワク学び隊」派遣の更なる充実改善に向けて、各「ワクワク学び隊」の派遣後に学生と市町スタッフから回収したアンケートや聞き取りを基に、今後の取組の方向性をまとめることとした。

2 ワクワク学び隊の経緯

(1) 放課後子ども教室推進事業の目的

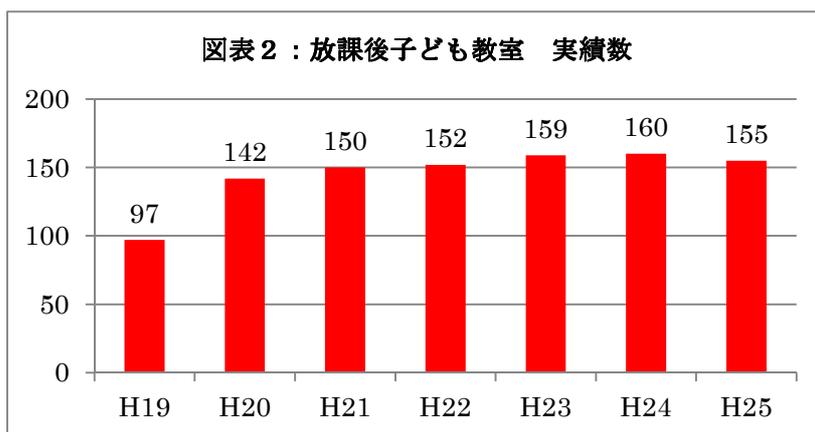
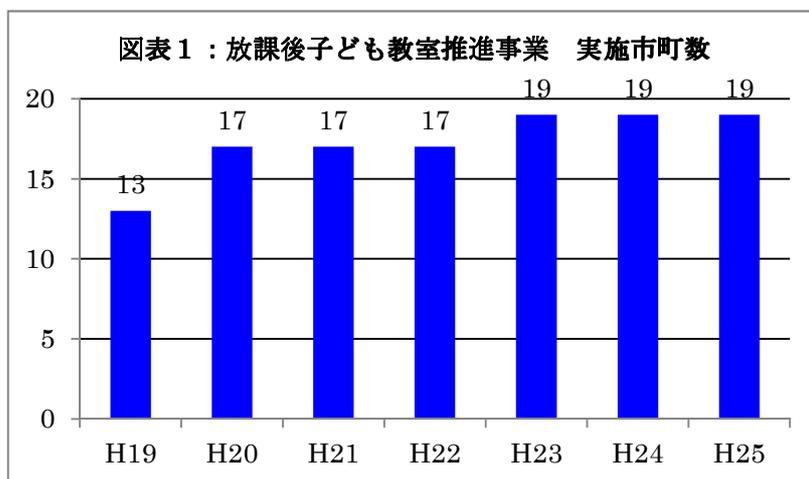
放課後子ども教室推進事業の趣旨は、「放課後や週末などに学校の余裕教室などを活用して、子供たちに安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちに学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供するものとする。これらの取組を通じて、子供たちの社会性・自主性・創造性などの豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子供が安心して暮らせる環境作りを推進する」と放課後子ども教室推進事業実施要綱（参考文献①）に示してある。この中で、ポイントは3つあると考える。一つ目は、子供たちにとって、安

全・安心な放課後の居場所を設けること。二つ目は、地域の方々に子供の居場所づくりに参画していただくことで、地域の教育力を高めていくこと。三つ目は、子供たちへ、学校や家庭では出会えない様々な体験や、地域の人々との交流活動を定期的・継続的に提供することである。

このことを受け、広島県でも平成 19 年度から放課後子ども教室推進事業を実施している。

(2) 広島県の放課後子ども教室推進事業

平成 25 年度に放課後子ども教室推進事業を実施しているのは、県内 23 市町のうち、19 市町である。図表 1 は平成 19 年度からの実施市町数の推移を示している。また、放課後子ども教室数の教室は、平成 25 年度は 155 教室が実施予定としており、図表 2 は、放課後子ども教室数の推移を示している。



※H25 は実施予定数

(3) 「ワクワク学び隊」の派遣

平成 19 年度から実施している放課後子ども教室であるが、先に課題として述べたとおりボランティアの確保、活動のマンネリ化対策の一つとして、「ワクワク学び隊」派遣

を平成 23 年度から始めた。

平成 25 年度の派遣チームの登録は、平成 26 年 2 月現在 27 チームで、12 の大学から 504 名の大学生が登録している。平成 25 年度の派遣件数については、平成 26 年 2 月現在 196 件の派遣希望があり、最終的には 191 件の派遣予定となっている。この件数は、図表 3 にあるとおり、昨年度と比べ 50 件以上の増となっている。この要因として、伸びが見られた市町の担当者の話を聞いてみると、「実行委員会の会議の中で、『ワクワク学び隊』の活動の様子等を紹介している」「スタッフ同士で、口コミで広がっている」「放課後子ども教室スタッフが、県立生涯学習センター（以下「センター」という。）のホームページを参考にしている」等が挙げられた。

また、登録チーム数については、平成 25 年度は、1 チーム 2 名以上（23 年度は 5 人を 1 チームとしていた。）とした 24 年度と比較して、4 チームの増加となっている。この要因について新たに登録した代表者に話を聞いてみると、「以前チラシを見て、いつか『ワクワク学び隊』として活動したいと考えていた」「大学の先生からの勧めがあった」「センターの職員から大学訪問時に話を聞かせてもらって活動してみたいと思った」等の答えがあった。徐々にではあるが、広報の取組が効果を出してきていることがうかがえる。

図表 3：ワクワク学び隊の派遣件数等

	23 年度	24 年度	25 年度
派遣件数	74	139	191
派遣先市町数	15	16	16
登録チーム数	39	23	27

※23 年度は 5 人で 1 チームとしているため、人数が 5 名以上のチームは分割して登録している。

※25 年度は、予定を含む。

3 アンケート結果の分析

(1) 活動に対する満足度と今後の活動についての結果

アンケートは、「ワクワク学び隊」派遣を実施した際、大学生と教室スタッフの双方に対して行っている。大学生には、3 項目、教室スタッフには 2 項目について 3 段階の達成度で評価を依頼している。

図表 4：大学生へのアンケートから

項目	23 年度	24 年度	25 年度
自分たちの活動に満足である	75%	85%	79%

今後の自分の活動に生かすことができる	100%	99%	99%
今後も引き続き活動したい	93%	98%	98%

(25年度は、平成26年2月現在)

図表5：教室スタッフへのアンケートから

項目	23年度	24年度	25年度
ワクワク学び隊の活動に満足である	98%	95%	98%
今後も教室に大学生を受け入れたい	98%	98%	99%

(25年度は、平成26年2月現在)

図表4から、今年度、自分たちの活動については、約2割のチームが満足できていないが、同時に、ほとんどのチームが今後も続けていきたいという思いを持っていることがわかる。

また、図表5から、ほとんどの教室スタッフが、「ワクワク学び隊」の活動に満足し、今後も受け入れていきたいと思っていることがわかる。

(2) アンケートの記述内容の結果

アンケートには、それぞれの評価を選んだ理由と活動についての意見や希望を記述してもらい、教室スタッフには、併せて子供たちの様子を記述してもらっている。

大学生は、活動の満足度について『満足とも不満とも言えない』と評価するとともに、「自分たちの力不足でうまく活動できなかった」、「準備がうまくできなかった」、「自分たちが計画していたことが十分にできなかった」等と記述されたものが見られた。このように記述した学生は、必ずと言っていいほど、「この経験を次回の派遣にいかしたい」、「次回は、より綿密に計画を立ててこのようなことのないようにしたい」、「課題や改善すべき点が見つかった」、「自分たちの能力の向上につながった」等の内容をアンケート項目の「今後の自分の活動に生かすことができる」という欄に記述していた。

一方、教室スタッフについては、アンケート項目の『今後も教室に大学生を受け入れたい』の中に、「自分たちでは考えられない体験ができる」「単調になりがちな時間に変化をつけてもらうのにはいい企画である」、「年の近いお兄さん、お姉さんが来てくれ、子供たちは楽しみにしている」というように良い反応も見られたが、アンケート項目『意見や気づき』には、「大学生と連絡が取りにくい」、「事前の打合せが不十分であった」等の大学生との連絡調整についての意見もあった。このような内容は、大学生の同じ項目の記述内容にもあり、「どんな些細なことでも確認しておくべきであった」「準備物を確認できていなかった」、「学年の人数や開催場所の広さなどを把握しておくべきだった」等、打合せについての気づきが示されていた。

また、「もう少し早めにチームを決めてもらいたい」、「東部方面のチームを増やして

ほしい」等、センターのマッチング等についての意見も記述されていた。

(3) アンケート結果から見えてくる課題

このようにアンケート項目の数値や記述したのを見てみると、大学生については、「事前連絡を十分に行い、当日の活動を充実したものにしたい」、「良い経験も悪い経験も次回に生かしたい」、また、教室スタッフについては、「大学生と事前連絡を十分に行いたい」、センターについては、「早めのマッチングの必要性」「チーム登録のエリアの拡大」が課題として挙げられる。

4 改善案

「ワクワク学び隊」の派遣についてアンケートを基に振り返ってきたが、この取組は大学生と教室スタッフの双方にとって、数値的な評価等から有意義な取組となっている。前述の3(3)に示した課題を改善していき、さらに、この取組の充実を図っていくためにも次のことについて、改善案を考えてみたい。

(1) 事前打合せの充実

これまでも事前打合せについては、大学生及び市町担当者の双方に、マッチング時に活動の手引きを活用して念入りに進めてもらうように伝えてきた。その内容の確認や進捗状況についても、電話で確認を行ってきた。

しかし、現在行われている打合せは、大学生が教室スタッフと言葉で交わすものが多いのではないかと考える。このため、打ち合わせの内容を記録に残す方向に誘導できれば、より充実した打ち合せにすることができると考える。

改善策として考えたのは、教室担当者及びチーム代表者が「『ワクワク学び隊』事前打合せシート（仮称）」を活用し、事前打合せを行うというものである（参考文献②）。このシートは、マッチング後に市町及びチーム代表者へ送付する。このシートを活用して、事前打ち合わせを言葉のみで行うのではなく、活動の目標、活動の時間の流れ等を記録し、お互いに確認し合いながら、打ち合わせを行うのである。このシートを活用すれば、確認事項を漏れなく打ち合わせができるとともに確認事項が記録に残り、間違いがなくなるという効果が期待できると考える。

（『ワクワク学び隊』事前打合せシート（仮称）」は、資料①を参照）

(2) 活動実施後の振り返りの充実

活動後には、多くの教室で、教室関係者と大学生が振り返りを行ったり、活動後に大学生自身で振り返りを行ったりしている。

そこで、活動実施後の振り返りを更に充実させるために、前者の教室関係者と大学生

の振り返りの際(以下「振り返り会」という。)に「『ワクワク学び隊』活動振り返りメモシート(仮称)」「『ワクワク学び隊』活動振り返りメモシート活用ガイド(仮称)」を活用してもらうことを提案したい。これは、活動の目標を達成することができたかどうか等を確認するものであり、今日の活動の成果等を教室スタッフ等と大学生が共有するという目的で活用してもらうものであるため、センターへの提出は求めない。また、当日時間を設定しようとする、活動時間と大学生の移動時間の兼ね合いや、子供たちが大学生と遊んだりして振り返り会の時間の確保が難しい状況が考えられるので、あらかじめ事前打合せの段階で振り返りの時間を確保しておいてもらうことが望ましいと考える。

さらに、後者の大学生自身で振り返りを行う際には「『ワクワク学び隊』活動記録(仮称)」(以下「活動記録」という。)を活用してもらうことを提案したい。前述のように、事後のアンケートで多くの大学生が、この活動で得たことを次の活動に生かしていきたいと記述している。大学生が活動記録を活用して、今後何をどう生かしていくのかを具体的に残し、実際に次の活動へつなげていくことで、活動をより充実したものにしていくことが可能になるのではないかと考える。この活動記録については、他の大学生にも参考になることがあると考えられるので、センターがマッチングを行う際に、センターへもコピーを提出することとしてはどうであろうか。この活動記録については、例えば次のような活用が考えられる。A教室へBチームを派遣した後、同じA教室へCチームを派遣することとなったとき、Bチームが活動を通して得たことを活動記録へ記入しておき、センターがそれを把握していれば、Cチームへ生かせる内容をセンターから伝えることができる。また、後日そのBチームが他のD教室へ派遣される際に、A教室での活動記録を参考にしてD教室での活動をより充実したものにしていくことができる。

これらのことを通して、一つの活動が、それだけに終わることなく、常に広がりつつつながりを持たせていけるものとしていくことができると考える。

(『ワクワク学び隊』活動振り返りメモシート(仮称)」「『ワクワク学び隊』活動振り返りメモシート活用ガイド(仮称)」、『ワクワク学び隊』活動記録(仮称)」は、資料②、③、④を参照)

(3) マッチングの工夫と活動の拡大

マッチングについては、派遣希望を受けて、該当する登録チームに交渉している。その際には、電話、メールを活用しているが、仮にレクリエーションの内容の派遣希望が出された場合、現在はレクリエーションができるチームに1チームずつ当たっている。その結果、派遣のチームの決定に時間がかかってしまう。そこで、時間短縮のために派遣希望を満たすチーム全てに、とりあえず打診することとしていきたい。その際、複数のチームに当たっていること、複数のチームが可能となった場合、センターで調整する

ことがあることを伝えておく。そうすることによって、一度に複数のチームから回答が得られ、時間短縮が図れると考える。

また、登録チーム数の拡大については、現在 27 チームの登録であるが、県内を大きく東部、西部、南部、北部と分けた場合、東部の登録チーム数は 1、西部は 23、南部は 3、北部は 0 である。この結果からもわかるように、西部以外の地域から派遣希望が出された場合、派遣するのが困難となることがしばしばある。近隣の大学にチームがあれば、負担する放課後子ども教室に派遣希望を出しやすくなり、派遣件数の更なる拡大につながることを期待できる。そのために、特に西部以外の地域を中心に大学生への登録を更に進める活動を行っていくこととしたい。大学訪問を行い、さらに、その際に大学生に直接呼びかける場面をもつことは、これまでも行ってきて一定の成果を得ているところであり、今後とも、これまでの取組を継続するとともに、マスメディアの活用や現登録の大学生を介して、口コミによる登録の勧誘を行っていくことによって、登録チーム数の拡大を図っていきたい。

(4) 「ワクワク学び隊」派遣に関する社会的評価

最後に、登録チーム数の拡大に関連して、「ワクワク学び隊」の活動を社会的に評価できるものにできないかと考える。平成 11 年生涯学習審議会答申「学習の成果を幅広く生かす—生涯学習の成果を生かすための方策について—」では、学習成果を活用して社会で自己実現を図るの必要があり、生涯学習の成果の活用促進にも力を入れる必要があるとされている（参考文献③、④）。大学生がこの活動を行うことで一定の評価を受けることが可能となれば、大学生のやる気が高まり、自身のキャリア開発へつながっていくことになると思う。

そのシステムとしては、例えば、大学生が派遣ごとの活動記録を作成し、それを大学生及びセンターが管理保管しておき、必要に応じて、センターで活動総時間等を認証した「大学生ボランティアチーム『ワクワク学び隊』活動記録証（仮称）」を発行するといった流れになるだろうか。大学生によるこの取組に対する社会的評価が高まっていくために、今後、機会があれば大学の関係者などとも意見交換を行ってみたいと考えている。

（「大学生ボランティアチーム『ワクワク学び隊』活動記録証（仮称）」は、資料⑤を参照）

5 おわりに

「ワクワク学び隊」派遣が 3 年を終える。大学生は、この事業を通して、多くの学びと社会貢献への意欲を高めることができている。教室スタッフについても大学生から学

び、教室の活動にも良い影響を与えている。ただ、その中で課題も見えてきている。本研究で示した課題の改善を目指して、本提案内容を更に検討していきたい。

参考・引用文献および参考URL

- ①文部科学省『放課後子ども教室推進事業実施要綱』平成19年3月
- ②天野かおり（尚絅大学）藤本桃子（尚絅大学）『熊本県「地域の寺子屋」推進事業とそこでのボランティア活動を通じた大学生の学びと成長』平成26年2月
- ③生涯学習審議会『学習の成果を幅広く生かす（答申）－生涯学習の成果を生かすための方策について－』平成11年6月
- ④山川肖美『ポートフォリオと生涯学習』平成18年1月
(<http://ejiten.javea.or.jp/content.php?c=TkRnd01EYzE%3D>:平成26年2月20日参照)

「ワクワク学び隊」事前打合せシート

派遣市町名		担当者		TEL	
派遣放課後子ども教室		担当者		TEL	
派遣チーム		代表者		TEL	
活動日時等	月 日 () : ~ :		派遣人数: 名		

今日の活動で、子どもたちができるようになること（活動のめあて）

（タイムスケジュールなど）

時間	子供の動き	準備物	留意点
:	始まりの会		
:	終わりの会		

（参加する子供について）

参加予定数	日頃の様子と気にしておくことなど

（会場までの往復方法）

行き		帰り	
時間	移動方法	時間	移動方法

安全に活動するため、次のことについて詳細に打合せをしてください。

活動する会場（広さ、机・いすなどの配置）
物品の搬入・撤去（特に楽器など、大型の物品を取り扱う場合）
用具・材料の取扱い（特に実験において薬品などを取り扱う場合、特に調理において用具、食品などを取り扱う場合）
用具・材料の使用についての子どもへの指導（特にはさみやカッター、包丁などの刃物を子どもが使用する場合）
その他（調理における子どもの食物アレルギーの有無や休憩の取り方など）

「ワクワク学び隊」活動振り返りメモシート
～次の活動へ生かすために～

()月()日()市町名()派遣チーム名()

裏面の「ワクワク学び隊」活動振り返りメモシート活用ガイドを活用して、今日の活動を振り返り、良かったことや改善すべきことをメモしましょう。

	教室スタッフより	大学生より
「今日の活動で、子どもたちができるようになること」について		
準備について(事前打合せも含む)		
今日の活動の流れについて		
子どもへの関わり方について		
その他		

「ワクワク学び隊」活動振り返りメモシート活用ガイド

次の進行で、活動の振り返りの会を進めてください。お互いにメモを取るようにしましょう。

【活動の振り返りの会の進め方】（教：教室スタッフ等，大：大学生）

教：『今日の活動で、子どもたちができるようになること』について』ですが、大学生の方から、この活動を始める前に考えていたことが達成できたかどうか、教えてください。

大：（活動のめあてが達成したかどうかなどを伝える。）

教：（スタッフ等から見た意見を伝える。）

教：『準備について(事前打合せも含む。)』ですが、気付きなどありますか。

（気付きを出し合う。）

教：『今日の活動の流れについて』ですが、気付きなどありますか。

（気付きを出し合う。）

教：『子どもへの関わり方について』ですが、気付きなどありますか。

（気付きを出し合う。）

教：『その他』ですが、気付きなどありますか。安心・安全面や気になる子どもについてのことなどでもかまいません。

（気付きを出し合う。）

教：以上で、振り返りの会を終わります。

「ワクワク学び隊」活動記録

チーム名 ()

日 時	月 日 () : ~ :		
派遣市町		派遣教室	
活動大学生 氏 名	以上 () 名		
活動内容 (具体的に記 入してくださ い。)			
活動のめあ ての達成に ついて			
子どもの 反応			
良かった ところ			
改善プラン			
その他記録 に残すべき こと (移動方法、会場等 も含む)			

記入後は、コピーを県立生涯学習センターへメールかファックスで送ってください。原本は、次の活動に生かすために保管してください。

大学生ボランティアチーム「ワクワク学び隊」
活動記録証

○○大学
○ ○ ○ ○

あなたは平成26年度放課後子ども教室
推進事業大学生ボランティアチーム「ワ
クワク学び隊」派遣においてボランティ
ア活動に従事されたことを証します

活動時間

活動場所

平成○年○月○日

広島県立生涯学習センター所長